

6 / 4 養老町学校のあり方検討委員会議事録

項 目	発 言 内 容 等
開会のことば 町民憲章	<p>○開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席者報告→本日の委員会成立の報告 ・町民憲章朗唱
町長挨拶	<p>○川地町長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のあり方を検討していくことは、ひいては、町全体の姿・あり方、町行政に関わってくることであるため、本日の会議に出席させていただいた。 ・日頃、様々なお立場でご尽力いただいていることに感謝申し上げます。また、委員を快く引き受けてくださり、併せてお礼申し上げます。 ・養老町でも人口減少、特に若い方が町外へ出て行ってしまうということが起きている。出生率では、R3で100人を下回り、R5は78名であった。 ・より良い教育活動の構築と、質の高い学校教育の実現を目指し、学校の適正規模や適正配置など将来を展望した学校のあり方について検討していく必要が生じてきた。それぞれのお立場から、広い見地からご意見いただき、議論を重ねていただきたい。 ・学識経験者のお立場として2名の大学教授に入らせていただいている。教育的視点に立った専門的な見地からご意見をいただき、議論を深めていただけることを期待している。 ・本町は、町の最上位計画である「養老町まちづくりビジョン」を踏まえ、町政運営に取り組んでいる。養老町教育大綱に掲げる「ひとりひとりが輝く教育」の理念のもと、養老町まちづくりビジョンと連携し、子どもたちを地域ぐるみで見守り、育て、温かい環境の醸成を図り、人口減少に歯止めをかけていきたい。 ・未来へ羽ばたく養老の宝である本町の子どもたちのために、本町の実態にあった学校のあるべき姿をお示しいただき、方向づけをしていただくことを改めて願います。
資料確認	○会議資料の確認
委嘱状交付	○机上に配付
委員紹介	○委員及び事務局職員自己紹介
要綱の説明	<p>① 「養老町学校のあり方検討委員会設置要綱」の説明</p> <p>② 「養老町学校のあり方検討委員会傍聴人要綱」の説明</p> <p>③ 「養老町学校のあり方検討委員会の会議の公開に関する指針」の説明</p>
委員長・副委員長選出	<p>○委員長、副委員長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局案として提案してよろしいか。 →異議なし

	<p><事務局案></p> <p>委員長 安田和夫様 ・副委員長 安田澄雄様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご賛同いただける方は拍手をお願いしたい。 →拍手全員 ・ご賛同をいただけたので、安田和夫様、安田澄雄様に委員長、副委員長就任に対し、ご承諾いただけるかの確認 →委員長、副委員長より承諾の返事あり → 委員長席へ移動。
委員長挨拶	<p>① 委員長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつては、2年2か月、教頭として養老町に赴任した。養老町、教育委員会、区長さんなど、本当にたくさんの方に支えていただいて、こんな素敵な学校は他にあるのだろうかという思い。初めての学校行事では、本当に養老町は一つであるという実感をもった。今度皆さまのご協力を得ながら進めていきたいと考えている。
副委員長挨拶	<p>② 副委員長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年以上区長会長を務めているが様々な場で地域のつながりの大切さを感じている。今回のことは私たちにとっても大変重要なことなので、皆さまと一緒に手を取りながら進めていきたいと考えている。
諮問書交付	<ul style="list-style-type: none"> ・諮問書を教育長より読み上げ ・教育長より安田委員長へ手交
協議事項①	<p>① 学校の現状について（※事務局より説明）</p> <p><以下、各委員からの質疑応答・感想等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内小学校入学児童数の推移。実際に数字を見ると、寂しさや危機感を感じる。このあり方検討委員会で、養老町の未来を考えていくために活発に意見交流したい。 ・人間関係のことを考えると、子どもたちもたくさんいた方がいいし、クラスもたくさんあった方がいい。 ・子どもは減る中で、大人の役割は増していく。養老町としての新しい枠組みができるの良いのではないか。大人たちが教育にいかに関わり込んでいけるか。大人たちの意識を変えるような流れを保護者からつくっていけるとよい。 ・子どもは減っている中で、先生も減っている。働きやすい魅力ある教育現場になれば、預ける保護者も安心する。 ・ついにクラス替えができない1クラスになる。この数字が現実。学校としての規模感を保っていく施策が必要。 ・人数が減っていくことは寂しい。ある程度的人数がいる中で、社会性も育まれる。目の前の子どもたちに何ができるか考えていく中で、学校のあり方を考えていくことになるのではないかと感じる。スムーズな移行につなげていくことが重要。 ・複式学級。子どもたちは生き生きと活動している。人数が多い集団の

必要性を感じた。授業参観でも保護者より「よかった」という声もいただけた。

- ・今後の見通しも踏まえ、PTAの規約改正などを行った。自分の子どもは、中学校では友達づくりに苦戦した。この先のことを思うと、統廃合するにしても、しないにしても、早めに話を進め、皆さんに説明していかないといけないと思う。
- ・数字だけ見るとネガティブにとらえられるが、今に始まったことでもない。今こそ多様性を大切にして、あらゆる世代の方と関わるのが大切である。困難に直面しても、いかに自分で乗り越えていけるか、そのような力をつけることが必要。
- ・長い目で見ると、若い人たちが養老町に住みたいと思えるようにすることが大切。町全体で真剣に議論しながら進めていくことである。もう一つは、今日の話でエネルギーを感じた。今、目の前の子供たちのために何ができるか、という思いを大切にして、ぜひ多くの方に伝えてほしい。
- ・役員をやりたいという人が少ないのが現状。何かやるにしても集まらない。子どものためが一番なので、みんなが協力してやっていくことが必要。
- ・集団でやることが自分たちだけで成立しないというのは、やはり寂しい。
- ・園から高校まで3つの資質・能力をつけることが求められている。園を卒業する時までには10の姿も示されている。これらをいかに身に付けるか。相手の気持ちを受け止めて、自分の考えを堂々と伝えられる環境をつくっていかないといけない。
- ・少ない人数ならではの良さもある。活動もしやすい。ただ、全ての遊びができるわけではない。思いっきりぶつかり合う機会があることが子どもにとって幸せなことだと感じる。また、大人になった時、ふるさとの楽しい思い出につながるのではないかと感じる。
- ・やはり故郷には思いがある。その思いを大切にしたい。これまで、子どもためにということで、たくさんの方に協力していただいた。今、少子化の問題が出てきているのは仕方ないかもしれないが、支えていくのは親である。養老町の良さを知っていただいて、養老町で住んでいただけるようになると嬉しい。
- ・昔と今は変わっていることが多い。昔の全てが良いというわけでもない。ただ、現状を変えていけるのも、今いるメンバーであると思う。
- ・それぞれの立場から熱意をもって考えられている。多様な子どもたち、その多様な子どもたちが交流できる環境をつくりたいというのが共通の思いだと感じた。何が良いのかというのを様々な選択肢や角度から協議していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を中心としたコミュニティが養老町のよさ。地域と学校が密接な関係にある。子どもたちのために、できることをやっていきたい。今後、学校をどうしていったらいいか様々なご意見をいただきながら、保護者アンケートをとるなどして進めていきたい。
協議事項②	② スケジュールについて（※事務局より説明）
質疑応答	<p>Q) オンライン交流よりも、その時間を直接的な交流に充てた方が良いのでは。</p> <p>A) 校長会とも連携している。少しでも交流の機会を増やしたいという思いでオンラインの交流を位置付けている。</p> <p>Q) このメンバーで、答申まで進めていくのか。</p> <p>A) 委員の任期が役職で就任いただいている委員については、当該役職の任期までとなっている。スケジュールに沿って進め、内容が決定されて答申ということになることをご理解いただきたい。</p>
その他	○次回開催日、協議事項の確認
閉会のことば	○閉会

20時50分閉会